様式２

学校名（稲美町立稲美中学校）

実施日：６月 12 日（６校時）	
教科等：特別活動	
取組名：だれもが生活しやすい稲美中学校をつくろう	
対　象：全校生徒	実施場所：各教室及び体育館

ア　ねらい

- 各学級での話合い活動を通して、だれもが生活しやすい「学級」「学校」について考える。
- 全校生から寄せられた意見を全校生で共有し、他者の思いを知りながら、めざす学校について意見交換を行い、今後の学校生活のどの部分で宣言を活かすことができるかを考えさせる。

イ　指導内容（指導略案）や取組の概要

第１次　　各学級での学習

- 生徒総会に向けて、１学期の取組内容をふり返る。
- ２学期に行われる「50 周年記念チャリティイベント」について知り、だれもが楽しめるアイデアを相談する。その際、地域の高齢者や体の不自由な人たち・外国籍の人たちのことも考えながら、考えを出し合う。

第２次　　生徒総会

- 全校生から募った、「どんな稲美中学校にしたいのか」の考えを、１クラスずつスクリーンに映し出し、全校生徒に紹介する。
- 50 周年記念イベントの内容について、各クラスから出たアイデアを紹介する。
- 地域の方との「ふれあい」や「感動」をテーマにした取組を進めることを確認する。
- 令和５年度に策定した「稲美中学校人権宣言」を紹介し、全員で読み合う。「だれかのために自分に何ができるか」を考えられる人であってほしいという生徒会の表明を、学校全体で共有する。

ウ　連携先：学校運営協議会

エ　連携にむけての取組

50 周年記念イベントとするため、歴代の卒業生や保護者、地域の方々が集まり、再会を喜び合う機会ともしたい。そのため、学校運営協議会と連携し、広く住民にイベントを呼びかける。

オ　組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点

- 各学級での話合いを大切にする。校内やクラス内もそうであるが、地域にも様々な立場や考え方の人がいる。他者の思いや考えも尊重しながら、自分たちがどう生きていくかを考えさせたい。
- 生徒総会では各学級から出された意見をみんなで共有し、どの意見も大切にされるべきだという姿勢を示していきたい。

カ　評価の方法

- 話合い活動の様子
- ワークシート、感想

キ　成果

- 50 周年記念イベントと関連させて、「どのような稲美中学校がいいのか」を考えさせた。こうすることで、「居心地のいい空間づくり」の意識が共有されやすくなったと思われる。
- 「他人任せ」ではなく「自分たちで作る」意識が高められた。

ク　課題

今回の取組が生徒の「絆づくり」の第一歩となるよう、さらに「生徒が主体的に学びを進めていける場」や「機会」を増やしていきたい。